

## カリフォルニアの風（増刊号）

### 「教育講演会」

つい先日のこと、幼小サンノゼ校の子どもたちに、「さようなら」とあいさつを交わしていた折、「校長先生、教育講演会のお話がとてもよかったです」と声をかけていただきました。歩みを止められ、お辞儀をされてお話されるお姿に触れ、「お役に立っていたらうれしいです！」と会釈を返す出来事がありました。

そこで、お恥ずかしい限りですが、当日の骨子を紹介させていただきます。また事前にいただきましたご質問に対しての簡単なコメントも、以下に紹介させていただきます。

骨子については、

- ・発達にはその子に備ったテンポがある
- ・大人も子供にとっての環境です
- ・やる気を引き出すために
- ・学習方法については
- ・家庭学習を習慣付けるには
- ・現地校と補習校を経験した子どもは
- ・今後の国際社会を担っていくための
- ・自分自身を褒めてみよう
- ・幸せな子どもを育てるには
- ・あせらず 急がず あわてない
- ・もう一つ、読書は、…

こんなようなお話です。

その後、次のようなご感想をいただきました。一部の方の紹介となりますが、原文のまま、掲載いたします。（ ）内は、お子さんの在籍学年を示しています

- ・具体的なアドバイスがあり、すぐにでも実行してみようと思います。（幼稚部1年、小3年）
- ・意見交換や隣の親御さんとお話する機会があり、大変良かったです。年に2回ぐらいこのような機会があると良いです。（幼稚部）
- ・校長先生の温かなお言葉に、とても心が打たれました。ふだん、自分（母）に余裕がなく、いっぱい、いっぱいになるので、「大人も環境、大人も楽しむ」という言葉に助けられました。（小1年）
- ・子の教育と向き合いよい機会になりました。「ほめる」ことの大切さは分かりながら実行難しいなど痛感しています、とはいえ、心がけていきたいです。（小2年、小5年）
- ・自分自身まだアメリカにきたばかりで余裕がない日々を過ごしていた事で、子どものペースを感じず「やれ、やれ、早く」と言ってしまいました。多くのことを学びました。（小2年、中1年）
- ・今年の1月に渡米してきて、およそ5か月ですが、家庭学習の方法が難しく壁にぶち当たってありました。今日の講演会を聞き、とても参考になりました。（小3年）

・すでに上の子どもが高等部、中学部ですが、小学部の娘にまだできることや、子育てで私が気付いていないことがあれば知りたいと思い参加しました。子どもの教育において親の存在の大切さや、親自身が幸せでいることの大切さを、先生の温かいお話で聞くことができよかったです。

(小5年)

・褒められた時の気持ちを大事に！というお話が心に響きました。子どもの心と自分自身をたいせつに共に成長していきたいと思います。あたたかく育て！とても勉強にありました。貴重なお時間を本当にありがとうございます。(小6年、高2年)

・今日のお話にはたくさんの気づきがありました。アメリカでの滞在が長いので、質問の3問目が非常に興味深かったです。(幼稚部、小3年)

・非常にわかりやすくシンプルにまとめられていて、また話し方もゆっくりで楽しく学ばせていただきました。“集中力”をつけるという観点でうつし書きをするというのは新たな気づきでした。(小3年、小6年)

・渡米したばかりですので、あらためて大切なことを認識する良い機会となりました。(小3年、小6年)

・今日参加をして、子どもたちをたくさん褒めて、自尊感情を育ててあげたいと改めて思いました。(小1年、小4年)

・校長先生のあたたかいアドバイスにほっとしました。ついつい子供を追いつめてしまいそうになりますが、褒めていきたいと思います。(小6年)

・子どもとしっかり向き合うこと、こまめに具体的にたくさん褒めることが大事だと改めて思いました。(小2年、小6年)

・本日は沢山のアドバイスをありがとうございました。先生の体験から、お話を聞くことができ大変勉強になりました。またこのような会を開催していただくと嬉しいです。(小4年)

・一つ一つのお話が吟味され、かみくだいてお話してくださったので、ずっと頭に入ってきました。こちらで子どもも苦勞しながらですが、語学力、度胸、知識教養など、グローバル人材の原石になっているんだと、ほめてあげたくなりました。すばらしいお話をありがとうございました。(小3年)

続いて、事前にいただきました3点の質問と、それについてのコメントを簡単にまとめ、紹介いたしました。二つ目の質問は、参加者のみなさんにお話ししていただく機会といたしました。

Q: 補習校と、日本の学校で、教育方法や生徒の態度はどう違いますか。また、日本に帰ったとき、どんな点に気を付けたらいいですか。(小3年の保護者様より)

A: 今の日本の教育方法は、話し合い活動を通して、深い理解を伴うことを目的に指導法を工夫しています。また、学習方法を意識して指導しています。それは、「先生が正しいと考える方法」を押し付けるようにするのではなく、いろいろなやり方を知ったうえで、どのやり方が自分に合いそうかを子ども自身が考え、改善していこうという姿勢が大切という考えです。最終的に学習方法を選ぶのは子ども自身であり、他の方法を考えるのも子ども自身です。だからこそ、そのきっかけをつくったり、例を示したりする指導に取り組んでいます。この取組は、本補習校

でも今年度から始めていますので、帰国されることになっても、心配されなくてよいと思っています。

また、日本の学校は、集団と調和を重んじている面はありますが、補習校で基礎と生活習慣を学んでおけば、たいていは日本に帰ってからうまく適応できます。安心してください。それは、補習校が、日本とほとんど同じ学習環境をつくりあげ、運動会や保護者会主催の日本的な行事も取り入れ、子どもたちが知らず知らずのうちに帰国後スムーズに適応できるための土台をつくっているからです。ですから、補習校で学んでいれば、大概のことはできると思われていいのではないのでしょうか。日本に帰国したばかりの時は、知らないという理由からできないと思うことがあるかもしれませんが、お子さんならば、ほんの少しの努力で克服できます。何しろ、補習授業校で学んでいるお子さんですよ。最初はまったく言葉が分からなかった現地校で苦勞して学習し、日本子どもたちが逆立ちしてもかなわないほど豊かな異文化体験を積んできているのですから。お子さんの学ぶ力を信じてください。

気を付けなければならない点は、特にありません。それでもあるとしたら、お母さんが落ち着かなくなってしまうことではないでしょうか。保護者の皆様にとって、大切にさせていただきたいことは、「困っていることは何でも話してね」という姿勢で、楽しかったことを話題に、安心できる雰囲気づくりを心がけていただくことではないかと思っています。また、出会った友だちのよいところをたくさん見つけるよう、お子さんには、友だちのよさに目が向くようにしてあげられるとよいです。一方で、ご自身の不安をお子さんにぶつけるようなことは決してしないでください。また、必要以上に介入しないよう、お子さんが自分の力で解決できるように、前向きに支えていただくことではないかと思っています。

Q：年齢が異なるので学習時間や学習方法が異なります。家庭では、どのような学習方法がお薦めですか。(小4年の保護者様より)

A：まず初めに、日本語を話す環境について考えてみます。家庭でのあいさつはどうされていますか。おはようございます、ありがとうございます、失礼いたします、すみません、の「オアシス」や、いただきます、ごちそうさまでした、おやすみなさい、行ってきます、ただいま、など、日本語であいさつを交わす習慣を付けることは、年齢差に関係なくできるのではないのでしょうか。次に、年齢が異なってもできるのが読書です。補習校に通う子どもたちは本をよく読んでいます。また、補習校では、異学年交流の機会を多く作っています。お兄さんお姉さんが下の学年の学級に出向いて、読み聞かせをする活動の一例です。サンフランシスコ校では、この6月から、幼小部と中高部が同じ場所に集まることになったことから、ピンチはチャンスとばかりに、交流の機会を増やしています。先日のお昼休みには、ヤードで行っていた中高部の朗読部のアクティビティに小学生が訪ねてきていました。ご家庭ならば、このような交流、下のお子さんから、お兄さんお姉さんに、お母さんお父さんに読んで聞かせる時もいいのではないかと思います。

次に、先ほどお話いたしました、脳の発達から考えてみます。

第1段階の「0～3歳」の次、第2段階「4～9歳」は「気づきの時期」で、言葉そのもの、数字そのものに興味関心がある時期でした。この時期は、くり返して学習することに抵抗がありません。そこで、いつも同じ時間に「声に出して読む」「覚えたことをどんだん口に出して言う」「覚えて暗唱できるまでくり返す」「何度も書く」といったような学習習慣を身に付けさせることができます。そして、くり返ししている様子を褒め認めていただき、自分を褒めてくれる存在になるようにされてはいいかと思います。

さて、次の段階、小学4年生の後半あたりからは、思考力が発達し、物事を理屈でとらえるようになり、機械的な学習に抵抗を感じるようになります。それを逆手に捉え、見方を変えるよう促すのはいいかでしょうか。たとえば、食卓の座席配置を変えてみる、牛乳パックを片手に、上から、下から、側面から見させてみるようなことです。さらに、思考力を養う時期ですので、比較、関係づけ、分類、統合などの思考を促すと、思考スキルが身に付き、それらを働かせながら思考するお子さんに成長されると思います。具体的には、国語の教科書を振り返らせ、『『いいな』、『印象に残った』、『この作品で大事なところ』と思った文を、3文選んでみようか』の後に、「どうしてその文を選んだ」のと、理由をたずねる方法が考えられます。これは、お子さん一人ひとり、ペースが違いますから、教室よりむしろ家庭学習で行うのに向いていて、補習校の方が強みとなって表れる学習になると思います。ご家庭それぞれで、お子さんの状況に合わせて、問題作りや、促す方法を考えられるとよいと思います。なお、先ほどの3文選びは、一文一文を丹念に読むことになるという、副次的な効果が生まれると思っています。

Q: 学力の低下を感じた際、その対処はどうすればいいですか。英語圏で生活しながら正しい日本語を身に付けることの難しさから、どうしようかと悩んでいます。(小6年の保護者様より)

A: 正直、アメリカでの滞在期間が長くなればなるほど、このようなご質問になってくると思います。難しい問題です。ズバリという回答が出てきません。ごめんなさい。それでも無い知恵を絞りますと、以下の二つのことが浮かんできました。

一つは、お父さんお母さんに、補習校に通うことは、将来の可能性が膨らむことになると、日本語を学ぶ意欲や動機づけを、ご自身のお言葉でお話しを、ということです。もう一つは、日本語環境を意図的に作るということです。日本におじいちゃんおばあちゃんがいらっしやるならば、その方たちとズームでお話しされることができるようにするとか、時間的などの余裕があれば、日本での体験入学が、その方法かと思います。きっとですね、その体験中に、「日本語と英語両方喋れて、すごいな！かっこいいな！」と言われ、土曜日も、補習校に通っていることに、「えらいな！」と褒められるような体験が、補習校で学ぶ動機づけを促すことになるのでは、と浮かんできました。

教育講演会は、以上のような拙い内容でした。その中で、何か一つ、参考となるものを発見されるようなことになりましたら、とてもうれしく思います。

増刊号が、長文となりましたこと、お詫び申し上げます。